

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



Contents

2017年8月
第29号

- ▶ 日本医療機能評価機構の認定が更新されました!
- ▶ IVR-CTシステムの導入 -最適な血管内手術のために-
- ▶ 「細胞治療認定管理師」に認定!
- ▶ 当院での脳卒中診療について
- ▶ 神経膠腫(グリオーマ)の治療について
- ▶ 院内イベント情報
- ▶ 認定看護師の活動について



診療科紹介

感染症内科

日本医療機能評価機構の認定が更新されました!

当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構の認定病院です。

日本医療機能評価機構は、「病院機能評価」を通して、病院組織全体の運営管理や提供している医療について、中立的、科学的、専門的な見地から病院を評価する団体です。病院は5年ごとに実施される審査に向けて、患者さま中心の医療、良質な医療等の領域に分かれた89の評価項目に沿って改善を行うことで、病院の質向上を図ります。

当院は、平成19年に病院機能評価(Ver.5.0)を受審して認定病院となり、5年後の平成24年に同(Ver.6.0)を受審して認定が更新されていました。平成29年3月に、再び受審することになりましたが、今回は、内容を新たに病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)になり、評価項目だけでなく評価手法も含めた抜本的な改定が行われました。

当院では受審の約1年前から、全職員一丸となって改善活動や様々な準備を行い、書面審査と2日間に渡る訪問審査に臨みました。調査者(サーベイヤー)は、全員が医師や看護師などの専門家、病院長をはじめとする幹部職員や各部門職員の面接、病院の入口から患者さまをご案内する順序に沿った調査、入院患者さまの病棟での診療の調査、検査部門の調査などが行われました。

結果は、当院の活動が高く評価され、平成29年7月、無事、更新が認定されました。

今後も引き続き改善活動を継続し、さらなる病院の質向上に取り組んでまいります。



IVR-CTシステムの導入 -最適な血管内手術のために-



臨床画像(肝臓の血管撮影像)



IVR-CTシステム

IVR-CTシステムとは血管撮影装置とCT装置を組み合わせた装置です。X線による画像下治療(IVR)と呼ばれる低侵襲(体の負担が少ない)手術に使用します。その手術とは、脚の付け根などの血管からカテーテルという細長い管を挿入して、外科的に開頭や開腹をすることなく血管の形態的な病気(瘤や閉塞)、肝がんなどの腫瘍の病気の治療をします。病院4階の血管内手術・IVRセンターに導入されました。短時間に広範囲の撮影ができる撮影機能(1秒間に17cm)を基本とする様々な装備が搭載されています。使用するX線量は少なく、造影剤量も削減でき、患者さまに非常に優しい治療ができます。新しいIVR-CTシステムの導入により、患者さまの身体的負担をさらに軽減できるようになりました。今回、あまり聞きなれないお話ではありましたが、IVRという低侵襲な治療を安全かつ高精度に行うために不可欠な装置です。この機会に記憶に留めていただければ幸いです。何かご質問がございましたら、なんなりと中央放射線部へお問合せください。

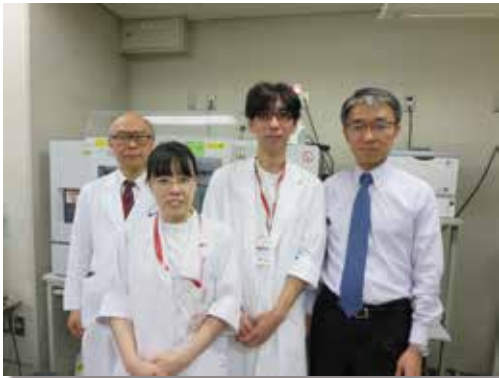
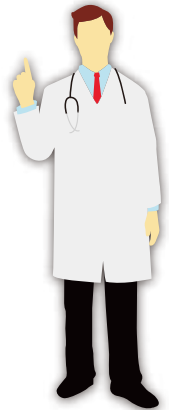
中央放射線部 市田隆雄

～資格認定～

「細胞治療認定管理師」に認定！

本院の医師・臨床検査技師が「細胞治療認定管理師」として認定されました。

当院では、白血病などの治療として年間約40例の造血幹細胞移植が行われています。そのうち、20数例は血縁者の末梢血幹細胞を用いた移植です。患者さまにとってベストタイミングで移植するため、事前に末梢血幹細胞を採取して、適切に細胞を処理、調整し凍結保管しておく必要があります。細胞の処理および保管は移植成績に関わるため非常に重要な作業であり、その知識と技術に精通した医療技術者が行う必要があります。日本造血細胞移植学会と日本輸血・細胞治療学会では、平成27年度から、安全で品質管理された細胞調整、保管管理ができる



医療系資格者の育成を目的として細胞治療認定管理師制度を発足させました。当院では平成28年度に初めて2名の医師と2名の臨床検査技師が細胞治療認定管理師として認定されました。今後もこの4名を中心として、安全で事故のない移植治療の推進および治療成績の向上に努力していきたいと思います。

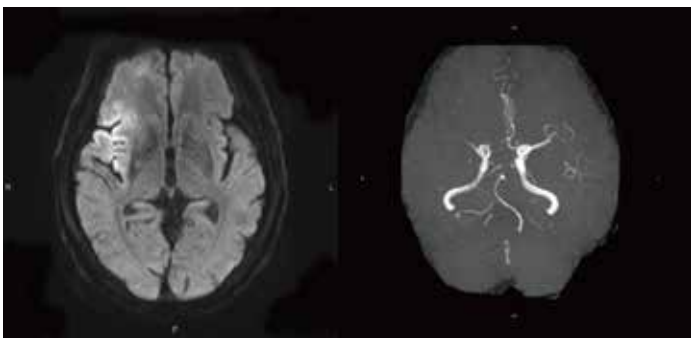
左から、日野雅之医師（血液内科・造血細胞移植科部長）、松本有紀技師（輸血部）、藤野恵三技師（輸血部）、田守昭博医師（輸血部副部長）

当院での脳卒中診療について

脳卒中は、我が国では依然として死因の上位にランクされ、発症後、一命をとりとめたとしても多くの患者さまに運動障害や認知症などの後遺症を残します。また医療費全体に占める割合も大きく、社会的、経済的な面からも日本の社会に大きな影響を与えている疾患だといえます。

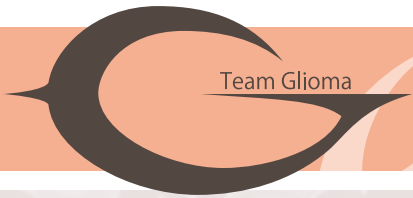
脳卒中には脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の3つのタイプがあります。脳出血、クモ膜下出血など手術が必要な症例は脳神経外科に入院し加療しますが、手術が必要でない場合は神経内科で治療します。

また、発症後数時間以内の超急性期の脳梗塞の場合、t-PA（組織プラスミノゲン活性化因子）による血栓溶解療法、あるいは血管内治療で回復する場合があります。脳梗塞に対する唯一の根本的治療となりますので、脳卒中を疑ったらすぐに救急要請をお願いいたします。



MRI拡散強調画像における急性期脳梗塞巣（左）とMRAによる閉塞血管の評価（右）

平成27年度より3次救急（生命に危険が及ぶような重症・重篤患者さまの対応を担う）で急性期症例の受け入れを行っていましたが、さらなる受け入れの勧奨のため、本年1月1日より日中2次救急（一般病棟に入院する中等症患者さまが対象）での受け入れを始め、さらに6月1日より受け入れ時間を24時間に拡大しております。何卒ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



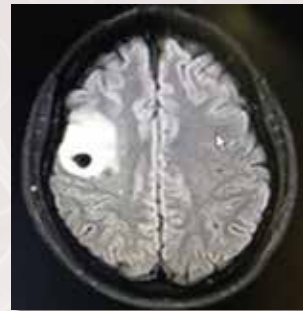
Team Glioma

しんけいこうしゅ

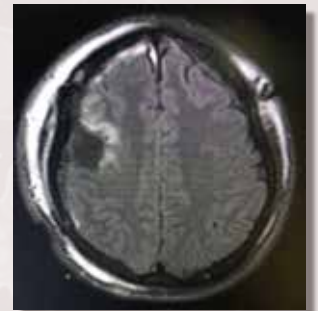
神経膠腫(グリオーマ)の治療について

脳腫瘍には大きく分けて、脳の外から発生する腫瘍（髄膜腫など）と脳の中から発生する腫瘍があります。後者の中にも様々な腫瘍がありますが、神経膠腫はこの中に含まれます。神経膠腫は症状がほとんどないものから、手足のまひや言葉が出にくいといった症状、認知機能低下や性格変化を来すものまで様々です。治療は手術、放射線、抗がん剤を組み合わせる場合が多いですが、手術によっていかに安全に最大限の腫瘍摘出ができるかが鍵となります。近年では覚醒下手術といって、手術中に麻酔から覚めていただき、手足を動かし会話をしていただきながら腫瘍を摘出する手法もあります。できるだけ症状を悪化させないために、当院では積極的にこの手術を取り入れています。写真に出ている画像の患者さまは腫瘍が手足の運動を司る部位に存在しましたが、覚醒下手術を行うことにより症状の悪化なく腫瘍を最大限摘出することができました。

手術後の放射線治療や化学療法は、神経膠腫の種類や患者さまの背景に合わせたテーラーメイド治療を行っています。院内、院外の多科・多職種で協力しながら、患者さまの治療に携わらせていただければと存じます。困ったことや気になることがあれば脳神経外科外来にご相談ください。



手術前



手術後

院内イベント情報

相愛大学による 第64回院内コンサート

平成29年8月3日(木)
15:45~16:30
病院5階 講堂

相愛大学による 第65回院内コンサート

平成29年10月5日(木)
15:45~16:30
病院5階 講堂

ボランティアグループ 「ブレンドエナジー クワイア」 によるコンサート

平成29年11月15日(水)
15:00~16:00
病院5階 講堂

一般財団法人 大阪科学技術センターによる ワークショップ サイエンスマジックと 実験ショー

平成29年11月22日(水)
13:00~13:40
病院18階 第4会議室

「はりねずみ」による ワークショップ お正月グッズ作り

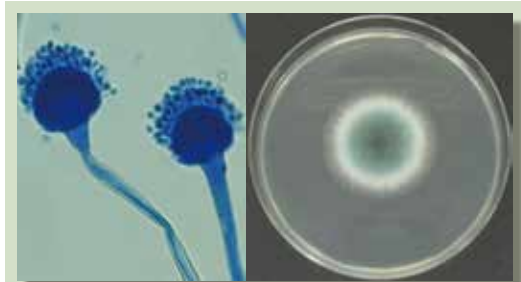
平成29年11月30日(木)
13:00~15:00
病院18階 第4会議室

詳しくは、ホームページをご覧ください
<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/pac/event.shtml>
 ホーム > 相談窓口 > 患者総合支援センター > 院内イベント情報

シリーズ **診 療 科 紹 介****感染症内科****難治性肺真菌感染症に挑む**

「縁の下から頑張っています！」

われわれ感染症内科は現在、5名の診療スタッフで当院における感染症の診療、研究、及び教育を担っています。感染症はどの診療科においても必ず遭遇する疾患です。特に当院のような高度医療を担う施設では、感染症の合併が元々罹っている病気の治療に大きく影響することがあります。元々の病気の診療に速やかに戻るためには、適切な感染症の診断および治療が重要です。感染症内科では各診療科と緊密な連携をとりながら、感染症の治療がスムーズに行えるように支援を行っています。また感染症内科外来は週2回（木・金AM）開設していますが、必要に応じて入院加療も実施しています。



左：肺アスペルギルス症の原因真菌（顕微鏡像）
右：培地上のアスペルギルス属



©Yukihiro Kaneko

当科独自の活動としては、肺アスペルギルス症などに代表される肺真菌感染症に対する研究を精力的に進めています。肺真菌症は診断が難しく、また治療薬の選択肢も限られており、現在においても難治性感染症の一つです。当科では専門的な見地から、それぞれの真菌症に最適な治療を行うべく努めています。さらに感染症診療以外にも感染制御部と一体となり、院内の感染症教育や啓発活動に加えて、感染症の発症予防など幅広い活動を行っています。これからも縁の下の力持ちとして当院の感染症診療、感染予防活動を支えて参ります。

シリーズ 第5回

～認定看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

今号では、皮膚・排泄ケア認定看護師をご紹介します

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、褥瘡（^{しよくそう}床ずれ）や傷などの皮膚トラブル、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）ケア、排泄における問題を抱えた患者さまに対して、専門的な看護ケアを提供する看護師です。

具体的な活動は

- ・入院患者さまに対して、看護師や医師、リハビリスタッフ、栄養士らと共に褥瘡（床ずれ）予防対策を行う
- ・「フットケア外来」で、糖尿病看護認定看護師と共に糖尿病患者さまの足のトラブル予防のアドバイスを行う
- ・ストーマ（人工肛門・人工膀胱）の患者さまに対して、手術前の説明外来、手術直後のケアや退院後も「ストーマケア外来」で生活に合わせた継続ケアを行う
- ・尿や便による皮膚トラブルがある患者さまに対して、皮膚ケア方法や適切な用具の選択、日常生活のアドバイスを行う



入院や外来通院されている患者さまが、少しでも快適に過ごせるように看護スタッフと連携し、対応させていただきます。

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

発行 / **大阪市立大学医学部附属病院**<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話：(06)6645-2121 (代表)初診受付時間：午前9時～午前10時30分
休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日